



小野 寺 貴 男 (蒼倫維新)

## 市役所が人口減少の一丁目一番地となるために

**問** 女性管理職の状況は。

**答** 直近5年間の主幹級以上の女性職員の割合は10%前後で推移しており、本年度は13・6%である。

参考

|     |       |
|-----|-------|
| 鴻巣市 | 30・7% |
| 加須市 | 24・2% |
| 熊谷市 | 20・7% |
| 羽生市 | 8・5%  |

状況の改善のため、引き続き、仕事と家庭を両立できる職場環境の整備をはじめ、女性職員のキャリアアップへの心理的不安に対する支援、研修や派遣などを通じた人材育成、女性活躍の意識啓発などを一体的に継続的に行うことにより女性職員の一層の活躍を推進する。

**問** 女性管理職の割合が低いことによるデメリットは？

**答** 女性管理職のロールモデル(考え方や行動の模範になる人物)が生まれにくく、昇任に対して消極的になることや、多様な視点による施策の実現が難しいことが挙げられる。また、組織としても、多様性、柔軟性に欠ける面もあると考える。

## ネーミングライツの導入による財源確保について

橋 本 祐 一 (令和研究会)



**問** ネーミングライツとは、

公共施設の名前を付与する命名権と、附帯する諸権利のことで、スポーツ施設などに企業名や社名をつけることであり、公共施設の命名権を企業が買収ビジネスである。施設の維持管理費の軽減が期待できる。現在、行田市のグリーンアリーナに空調設備を導入する事業が令和8年度完成予定で進められており、空調が整えばオールシーズンスポーツ等の大会のほか様々なイベントが利用可能となる一方で、経費の増大が予想される。

ネーミングライツ導入により少しでも財源の確保を考えることはどうか。

**答** 来年度メインアリーナ及びサブアリーナに空調を整備し、利用環境等の向上を図ることとしている。契約内容によつては施設の運営や利用に制限が生じる可能性があることなどから、既に実施している他の自治体の事例を参考に導入を調査研究していく。

【その他の主な質問】

○公共施設での喫煙対策

## 観光施策とにぎわいのまちづくり ／経費削減と働き方改革



香 川 宏 行 (令和研究会)

○はちまんマルシェと軽トラ朝市について

**問** はちまんマルシェへの出店者や来場者が減少していると感じる。現状における課題や今後の展望への考えは。

**答** 生産者等で構成する行田はちまんマルシェ実行委員会で運営方法等を協議しているが、出店者数と来場者数を増やすことが課題である。

地域の皆様からの積極的なご協力をいただいており、引き続き地域に根差した魅力あるマルシェを開催していく。

**問** 全市民が楽しめる軽トラ朝市を復活させるのはどうか。

**答** 農家の皆様の参加意向や、はちまんマルシェとの関係性を考慮しながら検討していく。

○選挙投票時間の短縮

**問** 投票日の選挙事務への従事時間を減らすことが、経費削減と、職員の働き方改革につながるのではないか。

**答** 人件費の削減や体力的負担の軽減に資するが、投票所の開閉時刻は公職選挙法に定められており、閉鎖時刻の繰り上げ等は困難と考える。